

平成 29 年度 第 6 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会会議録

会議名称：平成 29 年度第 6 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会

日時：平成 29 年 6 月 23 日(金)14 時～15 時 30 分

場所：リーパスプラザこが歴史資料館中会議室

主な議題：「第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画」の素案について

- ①パブリックコメントの報告
- ②ワーキンググループ会議の報告
- ③その他

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員 村山 美和子委員
渋谷 京子委員 井手 由紀子委員 青木 扶美子委員 入江 伸介委員
四郎丸 直子委員 松村 隆毅委員 草野 三保子委員 山浦 千春委員
以上 12 名

欠席者：1 名

事務局：6 名

配布資料：①第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画 素案
②レジュメ
③パブリックコメント報告

会議内容：以下のとおり

1 開会のことば

(事務局)

それでは、皆様おそろいですので、始めさせていただきます。

本日は、皆様お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

本日も海老名が司会進行をつとめさせていただきます。よろしく願いいたします。

まずは欠席の連絡をいたします。福岡教育事務所の社会教育室から来ていただいております堺委員さんが、所用のため欠席との連絡を受けております。それから山浦委員さん、渋谷委員さんがそれぞれ所用で遅れられるとの連絡を受けております。

続きまして資料の確認をさせていただきます。レジュメ、パブリックコメントの報告ということで 2 枚、机の上に置かせていただいております。第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画(案)は先日郵送させていただいたところですが、お手持ちでしょうか。

それでは、本会議も会議の公開制度に基づきまして傍聴席を設けております。会議の内容につきましても、古賀市のホームページ上に公開していきますので、あらかじめご了承くださいと思います。また、会議録作成のため、ボイスレコーダーを置かせていただいております。マイクもご用意しておりますので、発言の際にはマイクをご利用いただきまして、最初にお名前を言っていただきますようよろしくお願いいたします。スムーズな会議録作成のためご協力をよろしくお願いいたしますと思います。

それから、事務局より 1 点お知らせがございます。昨年度、社会教育委員の代表としておいでいただきました加藤典子委員さんですが、平成 29 年 3 月 31 日を持って社会教育委員の任期を終えられております。古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会設置要綱第 4 条に基づきまして、「委員が関係団体に該当しなくなった場合はその任を解くものとする。また、当該委員の後任委員の委嘱は行わないものとする。」というところにあたりますので、解嘱ということでご了承くださいませようよろしくお願いいたします。

それでは、第 6 回古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会を進めてまいります。開会の

言葉を文化課長星野よりいたします。

- (課長) 皆さんこんにちは。文化課長の星野と申します。今年度1回目とはなりますけれども、この協議会は昨年度から引き続きということで、第6回目というかたちになっております。
- 昨年7月からでございました。ようやく、1年という時を経まして、第3次古賀市子ども読書活動推進計画が策定というかたちにいたるということになっております。これもひとえに委員の皆様方のご協力のおかげと思っております。どうもありがとうございます。
- 後ほど詳細な説明はあるかと思いますが、5月に市民の皆様からも広く意見をいただくパブリックコメントを実施しております。委員の皆様方からの様々な御意見や、市民の方の御意見をこの計画に反映というかたちで、事務局の図書館係も努力して作っております。
- 今回がおそらく最後の協議会であるかと思っておりますけれども、本日お気づきになられたこと、これまでの事も含めまして、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただき、また次、5年後、第4次の策定に引き継ぎを行っていきたいと思っております。どうぞ本日はよろしく願いいたします。

2 会長あいさつ

(事務局) 続きまして、鈴木会長よりごあいさつをお願いいたします。

- (会長) それでは皆様、改めましてこんにちは。
- 課長さんからもお話がありましたように、一年にわたって第5回まで協議会をいたしました。本日第6回ということで、最終、ほぼ終了の運びになったということで、私も嬉しく思うところでございます。
- 今日はそんなに時間をとらないのではと思っております。資料もすでに送っていただいておりますので、目を通していただいたということをごまえて、協議を進めてまいりたいと思っております。
- それにしましても、直接担当されました部局、部署の方々、ワーキンググループの方々のご努力ですね。私たちはこうして協議はいたしますけれども、実はそういう方々が原稿、原案をしっかりとっていただいたこと、本日はいらっしゃらない方も多いんですけれども、お礼申し上げたいと思っております。それでは本日の協議をよろしく願い申し上げます。

(事務局) ありがとうございます。

3 協議等

「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」の素案について

(1) パブリックコメントの報告

(事務局) それではさっそく本日の協議に入っていきたいと思います。ここからの協議につきましては、鈴木会長、河村副会長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

- (会長) それでは協議を始めます。今日は初めにパブリックコメントの報告、それからワーキンググループ会議の状況報告等を説明していただきます。それを受けた後、皆さんから御意見等もそうですけれども、最後には締めというかたちになりますので、それぞれお一人ずつ感想、まとめのお話をいただきたいと思います。思っているところです。
- それではまずパブリックコメントの報告を事務局からお願いします。

(事務局) 図書館係水上でございます。よろしく願いいたします。第3次古賀市子ども読書活動推進計画(案)のパブリックコメントについてご報告させていただきます。

平成28年度は、改訂版作成後の平成24年からののおおむね5年間の成果と課題を見直し、今後の子どもの読書活動の指針となるよう、「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」の策定に向けて作業を進めてまいりました。このたび、古賀市パブリックコメント手続実施要綱

に基づき、「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」(案)を公表し、市民の皆様からの御意見を募集いたしました。

意見提出期間は、平成29年5月2日(火)～平成29年6月1日(木)とし、郵便による場合は、当日消印有効としました。古賀市広報行事予定表5月号にて周知を行い、市内設置場所として次の6か所を設定しました。古賀市役所正面玄関ロビー、サンコスモ古賀、リーパスプラザこが中央公民館、リーパスプラザこが交流館、リーパスプラザこが図書館、古賀市隣保館「ひだまり館」この6か所で行いました。また、古賀市ホームページや古賀市立図書館ホームページにも掲載し、インターネットからでも閲覧できるようにいたしました。

提出されました意見についてご報告いたします。件数は1件でした。レジュメとともにお配りしておりますパブリックコメント報告というプリントをご覧ください。

計画の柱3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及の部分についての御意見でした。御意見を読み上げます。

「“大人が子どもに読ませたい本”と“子どもが読みたい本”にはズレがありますが、同年代のおすすめする本であれば、本を敬遠しがちな子どもも手に取りやすいように思います。そこで、「小・中学生読書サポーター」を中心にビブリオバトルやブックトレード・カフェを行い、同年代から幅広い年代にかけて情報交換できる場を設けていけないでしょうか。まずは学校内のクラス単位から始め、次に学年から学校単位、ゆくゆくは地域へと段階を経て広げていくのが理想です。数年かけて行うことで、小学生で参加した子どもが中学・高校へと進学しても継続して参加できる取組となり得るのでは、と考えます。」

ここで、意見の中に出てきました用語の解説をさせていただきます。

「ビブリオバトル」とは、小学生から大人まで誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。公式ルールとしては、

①発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。

②順番に一人5分間で本を紹介する。

③それぞれの発表の後に参加者全員で発表に関するディスカッションを2～3分行う。

④全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

このようになっております。このルールに基づき、小・中学校、大学、企業、図書館、書店などで広く活用されております。古賀市リーディング・リーダー・プロジェクトのほうでも中学生の読書リーダーさんがビブリオバトルを行った実績があるそうです。

また、「ブックトレード・カフェ」とは、不勉強にして存じ上げませんでした。調べてみましたら、お気に入りの本を数冊持ち寄り、紹介しあう「場」のことだそうです。カフェのような自由でくつろいだ場所でゆっくりと本について語り合い、最後に読みたい本を差し上げたり、貸し合ったりして「トレード」します。2010年ごろから津屋崎の方ではじまったようです。

この御意見につきまして、事務局で検討いたしました。その結果、計画の柱3、28ページの中ほど、(4)子どもによる自主的な読書活動の取組のところが該当するのではないかと思われますので、◎今後の取組の「古賀市では、子どもによる自主的な読書活動を支援するため、学校や地域・図書館などが連携し、」のあとに「子ども同士での情報交換の場や」の表記を追加して挿入したいと考えております。

提出されました具体的事業につきましては要望として承りますが、読書サポーターにつきましては、中学生を対象に養成を行い、活動を行っているところです。

そのほか、子ども同士での情報交換の場の提供に対するこれからの具体的な事業につきましては、様々な手法が考えられますので、企画段階で検討してまいります。

パブリックコメントについての報告は以上です。

(会長) ありがとうございました。

(2) ワーキンググループの報告

(会 長) このことを受けて、ワーキンググループ会議の報告も続けてお願いしたいと思います。事務局よろしくお願いたします。

(事務局) 文化課図書館系の匹田です。ワーキンググループ会議について報告させていただきます。報告の前に、策定計画の本文中に誤字がありますので、申し訳ありませんが訂正をお願いいたします。

9 ページの(1)ブックスタート事業の取組のところでは、◎現状と課題がありますが、その下から2行目の「訪問の際に絵本を手渡したり、図書館で随時で」とありますが、この「で」を消してください。続きまして、「引き換えをを」と「を」が二つ続いてありますが、一つ「を」を消してください。文章は「図書館で随時引き換えを行うなど」となりますのでよろしくお願いたします。

それではワーキンググループ会議につきましてご報告いたします。さきほどパブリックコメントの報告がありましたが、この件につきましては、ワーキンググループ会議でも了承を得ております。

続きまして、各課からの修正案についてご報告いたします。子育て支援課と学校教育課から修正案が出されました。

まず、子育て支援課からは、9 ページ、今修正させていただいた部分であっております。◎現状と課題の下から3行目の、「ブックスタート事業に参加できていない保護者には、乳児家庭全戸訪問事業の再訪問の際に絵本を手渡したり、図書館で随時引き換えを行うなどすべての保護者に絵本が届くよう努めています」としておりましたが、「乳児家庭全戸訪問事業等の再訪問の際に」の「再」、再びという漢字を消して、「訪問の際に絵本を手渡し」とし、その後「すべての保護者に」とありますが「すべての」を消したいと出されました。すべての保護者に本を手渡すのは大切なことですが、子育て支援課ではまだ十分にできていないというところで「すべての」を省きたいという御意見でした。

事務局と子育て支援課で協議をしまして、「乳幼児家庭全戸訪問事業等の再訪問の際に」としておりましたが、再訪問ではなくいろいろな訪問事業を活用しているということで、再訪問の「再」という字は消してもいいのではということになりました。実際に図書館でもブックスタート事業に参加できなかった方でも、図書館に来られれば随時引き換えを行っておりますので、「図書館で随時引き換えを行うなど」という言葉を入れました。図書館でも子育て支援課でもすべての保護者に絵本が届くように努めているというのは事実なので、「すべての」という言葉は入れたいと申し入れ、了承を得、このような文章にしています。

学校教育課からは2点修正案が出されました。

1点目は15 ページ、下のほうの(6)図書館資料の充実の◎現状と課題の下から4行目に「蔵書冊数は充実してきましたが、まだ古い本が多く」とありましたが、「まだ古い本が多く」の部分の消してほしいとのことでした。昨年学校教育課が行った蔵書の調査の結果、古い本は多くないとのことでしたので、「まだ古い本が多く」というところは消しております。また、同じところで、「蔵書の計画的な更新」としていたところを、「蔵書の計画的な収集と更新」というふうに、「収集」という言葉を入れ、上の行にある文章とあわせています。

2点目はアクティブ・ラーニングという言葉についてです。20 ページの一番下の行、そのほかにも数か所出てきていました。以前の策定協議会でも堺委員さんが「アクティブ・ラーニングという言葉は入れ替えて日本語の形になります」とおっしゃっていました。再度、古賀市の指導主事にお尋ねしたところ、「文部科学省でもアクティブ・ラーニングという言葉を使っておらず、指導要領では主体的・対話的で深い学びという日本語になります」とのことでした。それで、アクティブ・ラーニングという言葉は「主体的・対話的で深い学び」とかえております。文中で事業名など固有名詞には鍵括弧をつけておりますが、この言葉は固有名詞ではないので、鍵括弧はつけておりません。同様の理由から語注もいれておりません。

(草野委員) すみません、何行目ですか。

- (事務局) 20 ページの一番下から次のページにまたがっています。文字はもう入れ替えています。アクティブ・ラーニングという言葉は入っておらず、子どもの主体的・対話的で深い学びという言葉になっています。
- このほかですけれども、29 ページ、(7)推薦図書の紹介の◎現状と課題の上から2行目、「学校では、平成27年度に「キミのための100冊(学校司書が選んだヤングアダルトおすすめ本)」の「ヤングアダルト」に語注で(*25)と入れておりましたが、これは事務局の番号の入れ間違いでしたので消しております。以上でワーキンググループ会議で出された修正についての報告を終わります。
- (会長) ありがとうございます。9 ページ、15 ページ、20 ページ、29 ページ等が、ワーキンググループで協議した結果、ここは修正したほうが良いということで、それを修正した上でお手元にお配りされているということですね。わかりました。
- (事務局) 付け加えてよろしいでしょうか。
- (会長) その他で事務局のほうからあるようですので、どうぞ。
- (事務局) ワーキンググループの報告を今いたしましたけれども、付け加えます。ワーキンググループ後に会長に報告をいたしました。その際に会長から訂正の指摘を2か所頂いておりますので報告いたします。
- 12 ページをお開きください。右下の写真についてコメントが「保育所での読みきかせ」とあり、「きかせ」がひらがなになっています。文中では「読み聞かせ」と漢字になっておりますので、漢字に訂正ください。
- 23 ページ、こちら写真の説明のところ。下のほうの写真についてのコメントが「こがめルームで保育園のおはなし会」とあり、「おはなし会」がひらがなになっています。文中では「お話し会」と漢字になっておりますので、「はなし」という字を漢字に訂正していただきたいということで指摘を受けておりますのでご報告いたします。以上です。
- (会長) 別に重要な指摘ではありませんが、ちょっと気になったので指摘しています。
- 以上で、1件だけではあったんですけれどもパブリックコメントの報告、それからその後のワーキンググループ会議の意見を踏まえて修正し、そして今のような若干の修正がありました。
- それではここまでで、今の事務局からの修正意見や報告に関して、御意見、御質問などがありましたらどうぞ。
- (青木委員) 青木です。34 ページの上から2行目、「本を読む場所本を読む場所は」と2回続けてあるんですが、1回でいいですね。「本を読む場所は」と訂正をお願いします。
- (会長) ご指摘ありがとうございました。
- このように、誤字脱字等も含めて、基本的には大きく変える必要はないのではと思います。これは不十分であるというような指摘がありましたらお願いします。
- (四郎丸委員) 23 ページの先ほどご指摘があった「こがめルームのおはなし会」の写真のところを漢字に直してはという意見についてです。全体をとおして、おはなし会をしているところは全部ひらがなになっているので、逆に写真のほうもひらがなにあわせたほうが全体としてはいいのではと思いますがいかがですか。
- (会長) 23 ページの文面のなかでも「おはなし会」とできますよね。それにあわせてこのままにした方がいいということですかね。

- (松村委員) たくさん出てきますよね。用語解説には漢字で書いてありますね。
- (事務局) 一般的な場合は「お話し会」と漢字で使うんですけども、図書館の行事として「どうおはなし会」や「赤ちゃんおはなし会」等を行う場合は、ひらがなで「おはなし会」と使い分けているつもりです。
- (四郎丸委員) 36 ページの読書ボランティア団体の「おはなし会ボランティアこがめ」と団体名もひらがなになっているので、こがめルームで主催の場合はひらがなのほうがいいのではないのでしょうか。
- (事務局) ありがとうございます。図書館主催のものをひらがなで統一しており、また「おはなし会ボランティアこがめ」というのは固有名詞で漢字には変えられませんので、ひらがなにさせていただきますと思います。23 ページの写真のお話し会については、保育園が主催ということで、お話し会をされたということになりますので、漢字にさせていただいているところです。
- (会長) 今指摘のあった 36 ページ、35 ページの活動内容などを見ますと、固有名詞でないところは全部漢字の「お話し会」になっていますね。固有名詞だとひらがなの「おはなし会」という使い分けをしているという説明で、だから写真の部分は漢字が良いのではないかということですね。
すべてひらがな、すべて漢字に統一してもいいですけども、実は固有名詞的などころであるとそれにあわせなければなりませんからね。しかも、混乱しないように固有名詞も文面もすべてひらがなになると、文章を総チェックしないといけませんね。その辺どうでしょうね。
- (松村委員) 私は県立図書館で子ども図書館も担当しております。こだわりはないんですが、できれば全部ひらがなにさせていただいたほうが良いと思います。私達も「おはなし会」はひらがなで使っておりますし、わざわざ漢字で書く必要もないんじゃないかと思います。使い分けというより、すべてひらがなにすれば簡単ではないかと思います。
- (会長) 小・中学校のおはなし会はひらがなになりますかね。
- (四郎丸委員) 就学前はひらがなでしょうか。
- (松村委員) 大人向けの「おはなし会」もやっていますけれども、大人でも子どもにもどるということでひらがなでも不自然ではないのかなと思います。
- (草野委員) わからないのですが、業務用語として、こがめルームという場所を提供するという活動ということで漢字が使われたのかなと思います。難しいですね。自分達がするときは、小学校の 5、6 年のプログラムを作るときは漢字を使います。小さい子だとひらがなが普通です。
- (村山委員) お話し会の件で、一般的にお話し会の「おはなし」はひらがなということを知りました。しかし、小学校ですと、2 年生でしたらこの漢字までは習っているとかそういうことで漢字に直したりすることを厳密にやったりします。もしこの部分をひらがなで残したいということでしたら、鍵括弧に入れて「おはなし会」としてはどうかと思います。
- (事務局) ことばの事典などに載っているのは、漢字を使う「お話し会」で、図書館でやっている「おはなし会」はひらがなにしています。第 1 次の計画からこういう表記で使わせていただいておりますが、ここで協議していただいて、統一したほうが良いということであれば、その方向でいきたいと思っておりますので、協議をお願いします。

(会 長) この協議の場で結論をだしていただきたいということですかね。皆さんの御意見等をいただいて結論を出しましょう。

(清水部長) 昨日、庁議といいまして、市長、副市長、三役、部長、課長などの会議がありました。その中で話題に上りましたのが「障がい」という言葉です。「障がい者」であったり、最近では「障がい」の「がい」の字をひらがなで書いております。この傾向につきましては、これからはこんなふうにしていこうということですが、法律では「障害」の「害」は漢字を使っているところです。これについても、文章的には、そこは柔軟な考え方でひらがなでやろうじゃないかと、会議のなかで決めたということがありました。

同じように、教育部としては、「子ども」という言葉があります。この言葉につきましても、「ども」の字はほとんどひらがなにしていこうということがあります。部分的に法律などではまだ漢字が使われています。これにつきましても、出来る限りひらがなで「ども」でいこうということで会議で決めてやってきているところがあります。

それとは少し主旨が異なるかもしれませんが、この協議会のなかで決めて頂いて、柔軟に活用していただきたいと私個人的には思っています。

(会 長) ありがとうございます。

(井手委員) ここの写真のなかだけで言えば、「保育園のおはなし会」として鍵括弧をつけていただけたらどうでしょうか。当事者であるうちの保育園の写真なので、その写真を削除しようかどうかとそこまで思って、さっきから黙っていました。保育園主催だったので、ここは鍵括弧つきで、「保育園のおはなし会」としてひらがなにしていいただいて、本文中の言葉に関してはひらがなにするのか漢字にするのか、協議していただけたらと思います。

(会 長) ここは鍵括弧つきでそのままということですね。

(草野委員) 村山委員がおっしゃったように、子ども達の学年によってプログラム化するときに漢字を使用することがありますが、ある時、大人の方に「何の講話があるのですか。何か良い、ためになるお話があるのですか」と聞かれたことがあります。漢字にすると、普通の大人の方は講話とかお説教のように思われることもあるんだなと思いました。今ここで考えていて、ひらがなの良さもあるし、よければ、古賀市ではひらがなの「おはなし会」としていただければと思います。学年に応じて使い道はあると思うんですけども。

(会 長) 「会」は漢字でいいんでしょうか。

(草野委員) はい、「会」は漢字で。

(会 長) 統一したらどうかということですね。橋本委員さんいかがでしょうか。小学校や高等学校のほうから御意見、御指摘があればどうぞ。

(橋本委員) あくまでもこの推進計画のなかでということですよ。計画のなかではひらがなで統一を図ることでどうでしょうか。現場では臨機応変に使うことも当然あるということ。

(河村委員) 技術的には難しくないですよ。パソコンで用語の統一を全部できますので、ひらがなで「おはなし会」とできますよね。今までのお話を伺って、小学校の橋本委員さんのお話を伺えば。鈴木会長、どうでしょうね。それとも固有名詞のところは使い分けますか。

(会 長) 全部統一しなくてもそう違和感ないと思っていたんですけどもね。そのほうがいいですかね。

(入江委員) いいですか。今のお話を聞いていて、固有名詞でひらがなを使っているところはそのまま使っていていいと思うんですよ。ただ、読まれる方がいろんな年代にわたりますので、漢字で書けるところは漢字で書いていただいたほうがよろしいと思います。固有名詞のところはひらがなで使い分けていいんじゃないかと僕も思います。以上です。

(会 長) 他には。よろしいでしょうか。漢字からひらがなに訂正するのは、字数が一文字ずつ増えて、行が変わりますよね。技術的にはそう難しくないと思いますが。

(村山委員) 「お話し会」を深くご存じの方にとっては「お話し会」の「おはなし」はひらがなということでしたけれども、先ほど初めて知ったと私申し上げました。そのような方は多いのではないかと、そうすると、そのような方は「あら、漢字じゃないのかな」と思われるのではと思います。何度も「おはなし」「おはなし」と出てくるからですね。もしかしたら、これが正しいのかなと思う方もいらっしゃるでしょうし、違和感を覚える方もいらっしゃるのではないかと懸念します。以上です。

(会 長) 私は今までずっと指導してきて、「一般的なお話し会はね」というときには漢字でやってきました。固有名詞は別として、鍵括弧をつけて扱えばいいと思うんですけれども、御意見もありましたけれども、私の判断でこの形で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(河村委員) はい、結構です。

(草野委員) それでは、井手委員さんがおっしゃったように、写真のところは鍵括弧つきで「保育園のおはなし会」にさせていただきますか。もし文面を変えないでいくとおっしゃるならば、それをお願いできたらと思います。

(会 長) そこはよろしいでしょうか。

(事務局) 確認です。23 ページの写真の下、こがめルームで保育園のおはなし会というところはひらがなに鍵括弧をつけるということですね。おはなし会だけですか、保育園のからですか。（「保育園の」からという声あり）「保育園のおはなし会」を鍵括弧の中とします。

それから、事務局で気づいた点なんですけれども、33 ページの真ん中、1 か月に読んだ数ということで書いてありますが、算用数字の1 となっていますが、その下は漢数字になっていますので統一したいと思います。ほかに資料1 のところの3 行目にも漢字で一か月というところがありますが、すべて算用数字の1 で統一させていただきたいと思います。

(会 長) 算用数字ということですね。漢数字でなくて。

(事務局) はい、算用数字に。何か所か出てくるのをすべて。

(四郎丸委員) 漢数字が正しいのではないのでしょうか。

(橋本委員) 私も漢数字が正しいのではないかとと思いますが、統一されるということなので、判断していただけたらいいと思います。

(会 長) ここでは1 か月に読んだ本ということですので、3 か月、6 か月となると算用数字が入ってくる場所ですね。難しいですね。算用数字でもおかしくはないとは思いますが。文面的には1 か月となると漢数字が多いですかね。専門的にいうとどうですかね。それでは事務局の方向をお願いします。

その他に御意見などありましたらどうぞ。(意見なし) それでは出尽くしたということで、

一応これで上げたいと思います。写真も入っていますし、カットもきれいにあって、どのくらいカラーになるかは、予算的などころもあると思います。一応協議についてはここまでにしたいと思います。

私のほうから2点ばかり、今後のことについてお尋ねします。1点目は市民の方、関係者の方のために、この計画書のダイジェスト版をつくられてはどうかということです。

2つ目はこの計画は出来たら当然市民の方にいわゆる広報、あるいは啓発ということになっていくと思いますが、その2点について事務局としてどのようなお考えでしょうか。予定はございますか。

(事務局) 2点鈴木会長からお尋ねがございました。

1点目がダイジェスト版についてです。第1次、あるいは改訂版の計画の際にはダイジェスト版を発行させていただいておまして、第3次の計画でも作成を予定しております。

計画がきちんと出来ましてから、事務局のほうで作成していこうと考えているところです。計画については200部、ダイジェスト版につきましては今のところ2000部の発行を考えております。

計画につきましては、小・中学校、幼稚園、保育園関係、読書ボランティア団体、庁舎内の各部署、近隣の県・市町図書館、議員の皆様等々へ配布していきたいと思っております。

ダイジェスト版につきましては、ブックスタート事業、あるいはセカンドブック事業の際に、絵本と一緒に保護者に手渡したり、子ども読書推進事業の参加者等に手渡したりしながら推進していきたいと思っております。地域へも、啓発していく機会をとらえてお話ししながらお渡ししていけたらと思っております。

2点目、「策定した第3次計画をどのように広報、あるいは啓発していく予定ですか」ということですけれども、図書館としましても、出来あがりましたら、図書館のホームページ、あるいは古賀市広報、ホームページ、今申し上げましたダイジェスト版の配布などで、あらゆる機会をとらえて周知していきたいと思っております。

それとともに、この計画が推進され、子どもの読書環境がさらに充実していきますよう、進捗状況の管理を古賀市図書館協議会に引き継ぎまして、そちらのほうで管理をしていきたいと考えているところです。以上です。

(会長) ありがとうございます。ダイジェスト版の事と広報、啓発の事について、加えて今後この計画が実際、それぞれの団体や地域、現場で進んでいくわけですから、進捗状況について、どんなふうに進んでいるかを見ていく必要があるということで、別に古賀市図書館協議会がありますので、そちらにゆだねて進めて行っていただくということです。1年目、2年目にどのような状況になっているかということを確認していただく必要があると思います。ありがとうございました。

いつ頃これが印刷されて出るかということは、また後ほど言っていただければと思います。

一応この協議会はこれで終了の運びとなります。

ここで、皆様方からお一人ずつまとめの感想、今後の事、希望も含めて、一言ずつお願いできたらと思っております。鈴木委員さんは最後にまとめをお願いいたします。

(井手委員) 保育園の現状を見ると、今本当にメディア時代で、0歳からメディアを使っている時代です。本を見る機会が少なく、絵本の貸出も行っているところですが、この計画を推進することによって、保護者のもとへ、子どものもとへ、絵本がいっぱい届くといいなと期待しております。ありがとうございました。

(青木委員) 1年間おつかれさまでした。たくさんの方のいろいろな意見をお聞きすることが出来て、大変勉強になりました。私の個人的な希望ですけれども、いつも中学校などでフェスタの前に講演会があるんですね。ここ何年かいつもスマホについての講演会ばかりなんです。できたら1回でもいいですから、作家さんをお呼びして、本の楽しさを伝えるような講演会をしたら、絶対に子ども達は皆聞くとお思いますので、作家さんの講演会があったらいいなとい

うのが私の希望です。

(村山委員) 子ども読書活動推進計画協議会の委員としましては、十分な見識をもっているわけではなく、毎回心苦しい思いをしておりましたが、この会議に参加させていただいたことで、委員さん方の意見を聞くことが出来、大変勉強になりました。ありがとうございました。この推進計画を大切にしたいと思います。

(洪田委員) この推進計画が絵に描いた餅にならないように、やはり課題となっているところは、課題が解決していくようにそれぞれの部署がやるということと、今後の取組と明記されていることを少しでも達成して行って、さらに発展するようにしていかなければならないと思います。この中で、図書館というのは、大人が連れてこないで、子どもが自主的に来るのでないと、本は手渡せないと思っています。

なので、今から読書率を上げ、考える子を育てるためには、保育園や小学校、中学校、高校という、子どもが絶対いる場所で、こういう計画のもとに、いかに本に触れさせるかということが、後々の本好きの子どもを育てるために重要だと考えます。学校図書館というのは深い意義があると思っていますので、学校図書館をもっともっと活用して、子ども達が本好き、あるいは考える子どもになれるように活用されるのを願っています。以上です。

(草野委員) 短い時間で、想いだけは熱くて、今終わるのかと思うと残念な気がします。本当に、私は心をこめて審議させてもらったように思っております。私は終生続けていかなければならないと思っています。

最後に、先日、たけのこ文庫の絵本ピクニックをさせてもらったときに、正面玄関にある作家さんの肖像と言葉を掲げさせていただきました。それは作家の石井桃子さんです。その掲げた言葉を最後に読ませてください。

「子どもたちよ、子ども時代をしっかりとたのしんでください。おとなになってから、老人になってから、あなたを支えてくれるのは、子ども時代の『あなた』です。石井桃子 2001年7月18日」

終生子どもの本のことをされていて、たぶん100歳になられたときの言葉だと思います。先日、私は斎藤惇夫先生をお呼びしましたが、全然変わっていないこと、願っていらっしゃることを肝に銘じて、私はまた続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

(山浦委員) 先日、子育てサポーターで乳幼児のお宅を訪問させていただいたときに、新宮町から引越して来られて、新宮で本をもらい損ねて、こちらではファーストブックが終わっていったというお声をいただき、何とかもらえるようにご相談したりしました。こうやって練った計画をより具体的に動いていけるように、私も微力ながらこれから頑張っていきたいと思っています。1年間ありがとうございました。

(四郎丸委員) 1年間ありがとうございました。年々特別支援学校の就学率が上がってしまっていて、今年小学部の1年生が7クラスと毎年クラス数が増えています。クラス数、生徒数が増えてきているんですけど、図書館環境が整っていないという課題があります。今回、すごく貴重な1年間でいろいろな研修を積ませていただきましたので、読書ボランティアさんの協力を得ながら、どんどん図書館を活性化していきたいと思っています。ありがとうございました。

(入江委員) 高校ということで、あまり役には立たなかったと思います。個人的には3歳と5歳の子どもがおり、その子たちには毎日絵本を読み聞かせしておりますので、大変ためになりました。個人的にありがとうございました。

(橋本委員) 第1回目の会議のときに、小郡型と宗像型ということで、古賀市はどの立場をとるのかということの審議から始まった会議でした。先生からも教えていただいたんですが、最終的にはこの計画の柱1、2、3が大きな古賀モデルといいましようか、古賀市の特色ある読書活動推

進計画になったと思っております。本当に私も勉強になりました。ありがとうございます。

他市町の読書活動と、比較というのはよくないんですが、それぞれの特徴があると思うのですが、本当に古賀市は、地域、それから読み聞かせの会の方々と図書館との連携力のすごさといましようか、当たり前のようにですけども、本当にすごいなということ、学校現場でも本当に感謝しております。子ども達に耳からの読み聞かせを届けて頂いて、一生の財産と思っております。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(河村副会長)

河村です。あっという間に1年間私も進んだなと思っております。子どもの読書活動というのは、この混乱した未来社会を子ども達が生きていくときに、考える力を育むという点で本当に大事なことだと思います。それがないとますます社会が混乱していくかもしれないし、そんな時、自分の意見をしっかり育てていく大事な活動が読書活動だと思います。そのことに関して、このように多角的な意見を皆様からいただいて、会議がすごくスムーズに進んでいって、私自身も学ばせていただくことがたくさんありました。

特に、最後でまとめて皆様のお声を代表して言わせていただこうと思うのは、鈴木会長が全体を綿密にまとめていただいて、事前のチェックもしていただきました。それと同時に、梅谷館長をはじめ事務局の方がそれに応えて、我々が出した多様な意見に応えて、いろんな調整をしていただいて、そのご苦勞なり、取りまとめがなかったら、こんなにスムーズにいかなかったと思います。この場をお借りして、皆様とともに、鈴木会長、本当にありがとうございました。

(会長)

会長としては十分なことは出来なかったのですが、ここまで来られたのを本当に嬉しく思っているところです。協議会でいろんな指摘、要望等を出して、それを受けてワーキンググループの方々が文面、文章を打ちたてていったというその活動に本当に頭が下がります。同時に、今日お見えの部長さん、課長さん、館長さんはじめ、事務局の方のご努力は本当に大変ではなかったかと思えます。私どもは協議会として協議はいたしますけれども、結果その部署の方々と事務局の皆様方のご努力がなかったらここまでいかなかったと思えます。

これまでの協議会の中で、皆様方から、古賀の子ども達のために、読書の重要性、読書が大事だという熱い思いがいつも伝わってきました。それがあからこそ、私も協議会の運営を進めていくことができたと思えます。この思いが結果子ども達にいくからですね。この計画、第3次ということですが、是非これを生かさなければならぬと思えます。以上でございます。ありがとうございました。では、松村委員さん、最後にまとめをお願いします。

(松村委員)

福岡県立図書館の松村です。まとめ的なお話をさせていただくならば、福岡県は60市町村あります。まだ第1次の子ども読書活動推進計画を作っていないところが一つございまして、来年3月には策定予定です。策定率は98%となっていて、60市町村中59市町村はすでに出来ているということです。その中で第3次の子ども読書活動推進計画が策定されているのは、福岡県は昨年の8月、すでにお話しているとおり宗像市と小郡市、そして昨年度末に久留米市が策定しましたので3市です。以後いくつかつくっている市町がありまして、古賀市もその次ということです。福岡県は98%の計画策定率ですが、これは大変に高く、100%の都道府県も3つ4つ、確か岡山県とかあるんですけども、47都道府県のなかの平均的な策定率は70%に届かないくらいで、福岡県の市町村はそれぞれ頑張っていたと思っています。

今後、この計画がどのように進んでいくかということについては、やはり不読者というところですね。基本的に1か月に1冊も本を読まない人を不読者と言うのですけれども、これをいかに減らすかというところです。

中学校、高校に進むにしたがって、特に高校生は不読率が高いんですね。古賀市は、先ほどから何度か言葉が出てきておりますように、福岡県が県の事業として小学生読書リーダー事業を行われたときに、古賀市では古賀市リーディング・リーダー・プロジェクト事業を作られました。夏季休暇のときに、プロジェクトとして毎年県立図書館の見学に来ていただいていたのは古賀市だけです。

そういったところで、中学校、高校のときに、一時的に本を読まなくなる生徒はいると思います。けれども、いろんな調査によると、小さな時代から読み聞かせを聞いたり、小学生や中学生のときにいろんなプロジェクトに参加したり、本に接していれば、そのうち必ず本に帰ってくるという数字的なデータもいくつかあるようです。それを励みにしたいと思います。

古賀市はこうやって第3次も策定の予定ですので、さらにいろんなところを補いながら、5年後、第4次の計画を作るんだと思います。先ほど進捗状況については図書館協議会を通じて見ていくというお話もありました。さらに細かいところで、古賀市の子ども達、古賀市の市民が読書に親しむような形になっていければと願っております。以上です。

(会 長) ありがとうございました。

(3)その他

(会 長) それでは事務局より今後の方向性、進め方についてお願いします。

(事務局) 事務局です。第3次古賀市子ども読書活動推進計画につきまして、ご検討ありがとうございました。協議会の皆様の御意見や熱い思いをいただきまして、図書館のほうでも皆で力を合わせて子どもの読書活動推進に努めていかなければいけないと実感しているところでございます。ありがとうございました。

今後、計画としてまとめていくんですけども、最後に資料編に、パブリックコメントについて、古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会設置要綱等を追加でいれさせていただきたいと思っております。

印刷については、先ほど会長からも言われましたけれども、カラー刷りで進めていこうと思っております。写真もカラーになります。予算の関係上、8ページにイラストが入っているんですけども、そこまでが白黒印刷で、それ以降がカラー印刷となります。もちろん表紙や、後ろのグラフなどもカラーで印刷にしたいと思っております。

もう一点ですけども、毎回お願いしております会議録の件です。今回の校正は橋本委員さんと鈴木会長に最後、お願いしたいと思っております。事務局で作成した後、お渡ししたいと思っておりますので、校正をいただきますようお願いいたします。お忙しいなかだと思っておりますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

(会 長) はい、わかりました。よろしいでしょうか。それでは最後に、梅谷館長からお願いします。

(館 長) 本日は、5月2日から6月1日にかけて行いました、パブリックコメントの結果への対応と、ワーキンググループによる最終の会議結果についてご協議いただきました。この協議を持ちまして、最終の第3次古賀市子ども読書活動推進計画の案としたいと思っております。今後、誤字・脱字等の過ちが見つかった場合は、会長と協議しながら修正していきたいと考えております。

今後といたしましては、この計画案を庁議、部長以上の会議のなかで報告させていただいて、その後、定例教育委員会で議決をいただくという段階になります。それが終わりますから、印刷発注ということになるかと思っております。なお、日付は今のところ案をあげておりますけれども、10月という日付を入れたいと思っております。

この第3次古賀市子ども読書活動推進計画の策定にあたりましては、昨年7月からほぼ1年間、6回の協議を経まして、やっとこの案にたどりつくことができました。本当にありがとうございました。図書館といたしましても、この計画をもとに、子ども読書活動の推進にこれから先、一生懸命努力していきたいと考えております。

今後も、皆様のご指導、ご鞭撻をいただき、ご協力をお願いすることもあると思っておりますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。

(会 長) ありがとうございました。協議を終わります。お互いのねぎらいも含めまして、拍手をお

願いたします。(拍手)ありがとうございました。それでは、事務局にお返しいたします。

4 閉会の言葉

(事務局)

鈴木会長、それから河村副会長、ありがとうございました。
それでは最後に、閉会の言葉を教育部長清水よりいたします。

(部長)

すでに館長も御挨拶いたしましたので、改めてということになりますが、委員の皆様におかれましては、1年間、貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

会議に出席されるにあたりましては、事前に資料を読むなど、相当の労力をかけていただいたと思います。何より、古賀市の子供達達の豊かな心の成長のために心を砕いていただきましたことに感謝申し上げます。

大変唐突ではございますが、最近、子役の芦田愛菜ちゃんが有名私立中学に入学されたというニュースを聞きました。その後、女優業の合間で勉強されるとか、相当の努力をした結果であるということ、それを支えたのが幼い頃からの読書の習慣で、彼女は相当の読書家だということを聞いております。この話題を聞いて、うちの子にも読書をさせなくてはと思った保護者の方も多かったのではないかと思います。

会議の中では、スマートフォンの普及等による読書離れであるとか、子供の貧困などに伴う問題、そういった社会の変化に伴う読書への影響なども議論いただきました。今後も状況が大きく好転することは難しいかと思えます。

しかし、私達がやるべきことは、子供達が、読書をしたかったとき、いつでも読書の世界にもどってこられるように、今回の計画に基づき、皆様のご協力をいただきながら、環境を整えて、門戸を開くことだと思います。

古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会としての会議は、これが最後になりますけれども、この協議会が大変良い会となりましたのも、会長をはじめ、皆様のお力とお人柄だと思っております。感謝申し上げますとともに、今後もさまざまな場面でご活躍されることを心からお祈りいたして、閉会の言葉とさせていただきます。どうもありがとうございました。